

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	治水ダム(再開発事業)	事業番号、事業名	24 治水ダム建設(再開発事業)				補助・単独別		補助	建設部河川課		
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況				
1	まつかわ 松川ダム 〔飯田市〕	洪水バイパス施設 パイパストンネル L=1,417.0m パイパス水路 L=171.1m 放水路 L=74.0m 分派堰、トラップ堰 各1基 管理設備 一式 貯水池掘削 V=2,400,000m3 〔工期:H2~H28〕	洪水バイパス施設 パイパス水路 L=65.9m 放水路(河川取 付部) L=70.0m	洪水バイパス施設 パイパス水路 L=32.6m 分派堰 1基 ゲート設備 一式	洪水バイパス施設 パイパス水路 L=32.6m 分派堰 1基 ゲート設備 一式 貯水池掘削 V=2,400,000m3	必要性 A	50%	洪水バイパス施設の検証のため工期が遅れる。 パイパストンネル・トラップ堰・放水路が完了し、パイパス水路を施工中。	飯田市中心部の洪水 氾濫を防ぐ松川ダムに おいて、貯水池への流 入土砂の軽減、貯水 池機能の回復、予備 放流の解消のため、 洪水バイパス施設の 建設や貯水池掘削を 実施する本事業は、必 要であり継続とする	必要性、重要性が高 い。 堆砂土対応要検討。	「継続」 堆砂土については、予 備放流の解消に伴い 新たに必要となる容量 の確保と、貯水池の運 用状況を考慮した掘削 土量を検討中である。	
		162億円	4億円	6億円	81億5798万8千円	重要性 A	特記事項 H21再評価:「継続」、残事業の進め方については、「ダム貯水池の運用 状況と堆積土の状況から緊急性を判断したうえで、コスト縮減も含めて柔 軟に事業を実施」することとされた。 再評価の結果を受けて、貯水池内の掘削土量を現在検討中。 昭和58年の台風10号により、ダム貯水池内に大量の土砂が流入し、そ の後も流域の山腹崩壊等による計画を上回る土砂流入があり、貯水池容 量が失われ、ダムの貯水池機能が低下している。 B/C(費用対効果)=1.9	緊急性 A				住民参加状況等 ・特になし
2	あさかわ 浅川 浅川ダム 〔長野市〕	治水専用ダム H=53.0m 貯水池地すべり対策 工 一式 付替道路・工事用道 路 一式 〔工期:S60~H28〕	ダム本体工事、 地すべり対策工 事 一式	ダム本体工事、 地すべり対策工 事 一式	ダム本体工事、地 すべり対策工事 一式	必要性 A	65%	計画どおり進んでいる。 現在、ダム本体掘削工事、地すべり対策工事 を施工中。	浅川ダム建設は、必 要性、重要性、効率性 及び緊急性の評価が 高く、現在も進む近隣 の宅地化に併せ、被 災対象家屋が増えて いるため、早期解消を 目指し事業を継続とし たい。	必要性、重要性が高 く、緊急性も認められ る。	「継続」	
		380億円	22億9200万円	19億9958万円	134億7588万6千円	重要性 A	特記事項 ・H12.9 多目的ダムとしての浅川ダム本体工事契約 ・H13.2 「脱ダム」宣言。その後、治水・利水ダム等検討委員会で 「ダムによらない治水対策」を検討。 ・H14.9 上記委員会の答申を受け浅川ダム本体工事の契約を解 除。ダムなし案を検討したが有効な治水対策確定にいたらず。 ・H19.2 「治水専用ダム」と「河川改修」による河川整備計画の方 針を発表。 ・H19.8 上記治水対策による河川整備計画の方針を発表。 ・H19.8 上記治水対策による河川整備計画認可。 (利水事業者の撤退により、多目的ダムから治水専用ダムへ変 更) ・H22.3 本体工事契約。 B/C(費用対効果)=4.1	緊急性 A				住民参加状況等 ・維持管理に関する住民参加については、今後地元と協議してい く。
合計	2箇所	542億円	26億9200万円	25億9958万円	216億3387万4千円			A: 配点の75%以上 B: 50%以上75%未満 C: 50%未満				